



じしゅう どうこうさん

時宗 東岡山 福田寺

【ホームページ運営中!】

<https://kyoto-fukudenji.com/>ちゅうどう
“中道の姿”

一年はあっという間で、年の瀬もいよいよ押し迫ってきました。皆様
がよいお年を迎えられるよう祈念申し上げます。

さて、お釈迦様の誕生日を祝う 4 月 8 日の「降誕会」、ご命日を偲ぶ
2 月 15 日の「涅槃会」を以前ご紹介しましたが、仏教の三大法会とし
てはもう一つ「成道会」という行事があります。毎年 12 月 8 日がそ
の日に当たり、「成道」＝お釈迦様がさとりを開かれた日を記念して法
要が行われます。

お釈迦様がさとりを得られたのは 35 歳のとき、6 年間に及ぶ苦行
(断食など) が正しい道ではないと気づかれたのがきっかけでした。苦
行を離れ静かに菩提樹の下で瞑想にふけり、ついに世界の真理をさとら
れました。

さとりの内容は諸説ありますが、「縁起」と「中道」がその核心であ
るといえます。縁起とは“すべての存在は互いに影響しあっている”、
“物事の結果には必ず原因がある”という真理です。

中道とは一般的に“縁起を知り、物事の両極端に偏らない”と解され、
「八正道」という 8 つの正しい方法を実践すれば中道を体現できると
されています。しかし実際のところ、私たちは日常生活に追われ、煩悩
に振り回され八正道どころではありません。出家であれ在家であれ仏教
徒には様々な生活規範がありますが、それを守りようがないのも現実で
す。また、そのような私たちに“正しさ”を判断することができるで
しょうか。一遍上人は「善悪は説かず」とおっしゃいます。そうとは申せ、
仏法をないがしろにして利己主義に陥れば、共生の道は閉ざされ、人類
の存続すら危ういことは明白です。

だからこそ「中道」が大事なのだと思います。それは仏様の教えを実
践しようと心に留めておくことです。実際には先ほど申しましたよう
に、努力をしても教えを完璧に守ることは難しいでしょう。厳格に守る
ことに固執するのではなく、「仏様の世界」と「世俗の世界」、この二つ
の世界は違うけれどもかけ離れていないのだと理解し、生きる姿が中道
ではないかと思えます。

有難いことに、折に触れてお檀家様から「毎月、お便りを楽しみにし
ています」「月に 1 度仏教に触れることができ、勉強になる」とおっし
ゃっていただけます。何よりも励ましになりますし、その仏教に臨む姿
こそが「中道」を実践されているようにも感じられます。 合掌

一向に称名し

善悪を説かず

善悪を行ぜず

『一遍上人語録』

一遍上人のおこころ

私たちは、比較でモノの価値をはかる相対の世界に生きて
いるので、心は常に定まっておらず、善悪・正しさの判断も
ままならないものである。よって人の行為について善である
とか悪であるとか決めつけるのではなく、仏様の教えに照ら
し合わせ、自らを省みることが肝要である。